



翔子

題字は金澤翔子さん

# 伊藤千代子に学ぶ志

100万円以上の募金

訪へ何度も足を運んで、連携して顕彰運動をすすめています。

た北海道苫小牧市の人たちが意欲を燃やしています。

千代子は、1905年長野県諏訪市で生まれました。社会科学研究会を通じて知り合った浅野晃と結婚し社会運動に身を投じます。日本共産党と出あい、侵略戦争反対、男女平等の社会をと頑張る千代子に希代の弾圧法、治安維持法が牙をむいて襲いかかります。国や政治を批判したり、自由や平和を求める者は「国賊だ」と、最高刑は「死刑」に。これに屈した浅野らが変節していきます。

## 北海道・苫小牧

「命のあるものはみんなあらん限りに生きようとしていく」「獄中最後の手紙」から。戦前の暗い時代に未来を見つめ、不屈にたたかった女性活動家、伊藤千代子。映画製作も決まり、千代子の志を引き継ごうと、手紙を発見し

### 人柄の良さが魅力

「人の話をじっくり聞いて励ます千代子の人柄の良さが大好き。大ファンです」。こ



伊藤千代子

## 戦前のたたかい描く 入谷さん(91)、畠山さん(83)



千代子の志を継ごうと話し合う(左から)松橋、入谷、畠山さんら＝北海道苫小牧市



う話すのは、入谷寿一さん(91)です。

入谷さんは、浅野と縁がありました。浅野は45年の東京大空襲で家を失い、三・一五事件(28年)で検挙され思想検事に屈服して変節した水野茂夫の経営する苫小牧の製紙工場に身を寄せ、自らの過去を伏せて詩作や文芸活動を手

がけ、地域文化の発展に寄与しました。

浅野と親しく懇談したことがある入谷さんは、穂別町(当時)の「浅野晃資料室」の資料を整理していた時、浅野の「幻想詩集」(66年)を見、大きなショックを受けました。

浅野が変節した思想を千代子に押しつけていた…。最

期まで非転向を貫いた千代子の思想までも塗り替えるとは。魂を扱う詩人としてとんでもない」と見方が一変しました。

変節と自己保身のために理屈をつけて生きてきた浅野。自由にものが言えない暗い時代に国民を救いたいと行動し、逮捕され、短い生涯を閉じた千代子。

「2人を対比することで千代子の真価が見えた」と入谷さん。

「獄中最後の手紙」を発掘

したのが、畠山忠弘さん(83)。「日本共産党元市議」でした。「手紙と出あったことは、人生が変わるほどの衝撃だった」と振り返ります。そのままにはしておけないと諷

畠山さんは、映画製作にあたり、手紙公開記念誌『地し

ばりの花』(2005年発行)を増刷し、映画製作実行委員会を立ち上げ、募金は100万円を超えて集まりました。入谷さんが苫小牧上映実行委員会の委員長を引き受けました。映画には、「最後の手紙」も登場する予定です。

「いま安倍―菅政権のもとで、学術会議会員任命拒否、秘密保護法や共謀罪と戦前の言論抑圧を思い起こす危険な動きが強まっている」と危機感を募らせます。

暗い厳しい時代を生き抜いた千代子。映画では、一貫して女性の地位向上や社会変革に明るく元気いっぱい活動している姿がよみがえります。

「公開は偶然にも日本共産党創立100周年と重なる年です」と苫小牧などで活動する党衆院道9区候補の松橋ちはるさん(38)。

「とても勇気をもらいました。千代子の生き方は、ジェンダー平等を進める私たちの羅針盤。頼もしい存在です」と語りました。

(北海道・田中絵梨子)